MICEビジネスを創造する

Event Biz

Vol.41
2025 Winter
［イベントビズ］



世界の最新 MICE施設



中台湾から世界へ、
産業を発信する新たなビジネス拠点

台中国際会議展覧センター（TICEC）

2025年10月、台湾に「台中国際会議展覧センター（TICEC）」が誕生した。台湾の中心部にそびえ立つこの新たなコンベンション施設は台湾、そして世界の MICE にどのような変化をもたらすのだろうか。台湾貿易センター（TAITRA）でプロジェクトマネージャーを務める王晨光氏に話を聞いた。

デザインコンセプトは「大樹の門」
世界へ枝葉を広げる生命力を象徴

――TICECはどのような施設でしょうか

台中市水湳経貿園区の中心に位置するコンベンション施設で、中部地域の交通拠点である高鉄台中駅や台中国際空港、市内主要ホテルからアクセスしやすい立地となっています。台中市政府が建設し、TAITRA が運営管理を行っています。

デザインコンセプトは「大樹の門」で、中台湾に根ざしながら世界へ枝葉を広げる生命力を象徴しています。特徴的な屋根デザインは「魔法の絨毯」のイメージで、展示館と会議センターを連結することで、台湾産業が世界へ飛躍することを表現したものです。



中台湾の産業（精密機械・工具機・航空宇宙・自転車・手工具等）が国際ビジネスへ直接接続するための、MICE プラットフォームとなることが期待されています。中部地域の産業集積地に隣接しているため、バイヤーが展示会への参加と工場視察を一体的に進められることが大きな特徴です。

――スペックについて教えてください

施設の総面積は３万8,916㎡で、収容能力としては標準ブース1,600小間以上を設置可能です。会議室は30人規模から最大１万人規模まで対応可能な多機能空間となっており、大型の展示会から国際会議まで幅広く対応できます。

台湾で初めて「ダイヤモンド級グリーンビルディング」認証を取得した MICE 施設であることも大きな特徴で、さらに AI ガイドシステムやエネルギー監視、スマート管理、多言語インフォメーションなどを導入し、「グリーン×スマート」を融合した次世代型の体験を提供します。

中部産業が国際舞台へ踏み出す
ゲートウェイとしての役割を担う

――TICECでは、どのような展示会や国際会議が行われるのでしょうか

2025年10月のプレオープンでは「台湾国際ハードウェア＆ツール展」が試験的に開催され、約400社が800小間にわたって出展しました。70カ国・地域から約8,500人のバイヤーが訪れ、新たな施設とともに大きな話題を呼びました。

今後も11月の「台中工作機械＆スマート製造展」をはじめ、精密機械や工作機械、航空宇宙、自転車など中台湾を代表する産業分野の国際展示会や商談会が予定されており、2026年には「TMTS 2026台湾国際工作機械展」などの展示会やイベントが開催される見込みです。

TICEC 運営担当の呉春見主任は、「現在はまだプレッシャーテストの段階にありますが、2026年には年間50件以上の展示会が開催される見込みで、年間利用率は約６割に達する見通しです。非常に好調な成果と言えます」と述べました。これにより、中部産業の高度化、国際化、観光経済の波及効果を牽引していきます。

――今後の展望についてお聞かせください

TICEC の誕生によって中部地域における大規模展示会場の不足が補われ、国際ビジネス交流の新拠点として大きな期待が寄せられています。今後は中台湾の産業ポテンシャルを世界市場へ直結させる、ビジネス交流の拠点



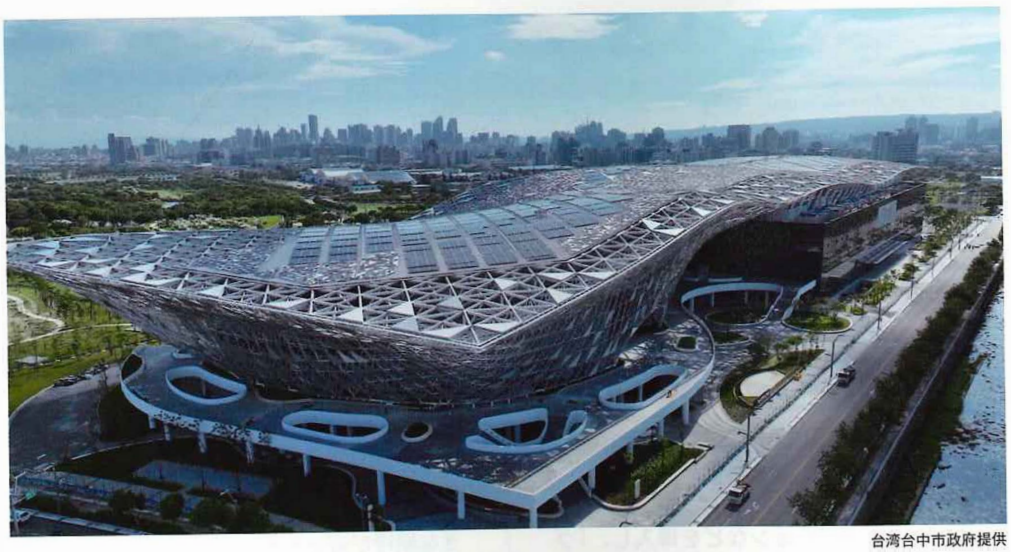
として成長していくことを目指します。

TAITRA の黄志芳董事長は、「TICEC は単なる新しい会場ではなく、中部産業が国際舞台へ踏み出すためのゲートウェイです。外貿協会としては、台湾全体を視野に入れた戦略的な展開を図り、展示会における地域連携とリソース共有を通じて、北部の運営ノウハウと海外市場開拓のリソースを融合させ、“展示会デュアルコア（dual-core）”の推進力を発揮し、より多くの企業が『地域に根ざし、世界に発信する』ことを目指します」と述べました。

台湾北部（台北南港）との相互補完によって台湾全体の MICE ネットワークを強化するとともに、地域開発・産業振興・国際交流を同時に推進し、「中台湾から世界へ」ビジネスの新航路を拓く存在になっていければと思います。



王晨光 氏
台湾貿易センター 東京事務所
プロジェクトマネージャー



台湾台中市政府提供



台湾台中市政府提供